











週間市場レポート (2022年1月3日~1月7日)

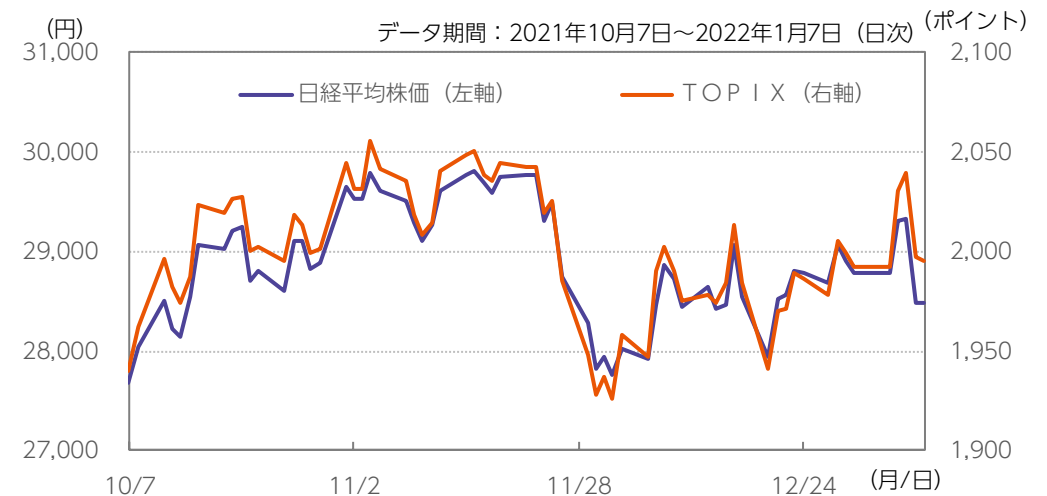
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 *2 2021/12/31	先週末 2022/1/7	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		28,791.71	28,478.56	▲ 1.09 ↓
TOPIX (東証株価指数)		1,992.33	1,995.68	0.17 ↑
ダウ工業株30種平均 (ドル)		36,338.30	36,231.66	▲ 0.29 ↓
S & P500種指数		4,766.18	4,677.03	▲ 1.87 ↓
ナスダック総合指数		15,644.97	14,935.90	▲ 4.53 ↓
ユーロ・ストックス50指数		4,306.07	4,305.83	▲ 0.01 ↓
S & P/ASX300指数		7,453.91	7,456.85	0.04 ↑
上海総合指数		3,639.78	3,579.54	▲ 1.65 ↓
MSCI AC アジア (除く日本)*		964.51	961.62	▲ 0.30 ↓
東証REIT指数		2,066.33	2,023.64	▲ 2.07 ↓
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		978.58	940.47	▲ 3.89 ↓
ASX300 REIT 指数		1,762.30	1,724.00	▲ 2.17 ↓
グローバルREIT (除く日本)*		228.43	222.05	▲ 2.80 ↓
日本10年国債 (%)		0.071	0.140	0.069 ↑
米国10年国債 (%)		1.510	1.762	0.252 ↑
ドイツ10年国債 (%)		▲ 0.177	▲ 0.043	0.134 ↑
英国10年国債 (%)		0.971	1.178	0.207 ↑
ドル/円		115.08	115.56	0.42 ↑
ユーロ/円		130.90	131.29	0.30 ↑
英ポンド/円		155.74	157.00	0.81 ↑
豪ドル/円		83.68	82.97	▲ 0.85 ↓
フィラデルフィア半導体指数		3,946.17	3,796.32	▲ 3.80 ↓
WTI原油先物 (ドル)		75.21	78.90	4.91 ↑
CRB指数		232.37	237.90	2.38 ↑

2) 日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で下落となりました。年初は、米景気回復の継続期待から前日の米国株式市場が上昇した流れを受け上昇し、2021年11月25日以来、およそ1ヵ月ぶりの高値を付けました。5日（水）に公表された12月の米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事録要旨を受け米長期金利が上昇すると、割高感が意識されやすいグロース（成長）株やハイテク株を中心に売られ大幅下落しました。週末は、前日の急落を受けた自律反発狙いの買いが入り上昇する場面もあったものの、買い一巡後は、3連休を控えた手じまい売りに押され小幅に下落しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

※現地通貨ベース *1 ▲はマイナスを表します。 *2 12月31日は休場のため、国内市場は2021年12月30日のデータ。

≪ 債券 ≫

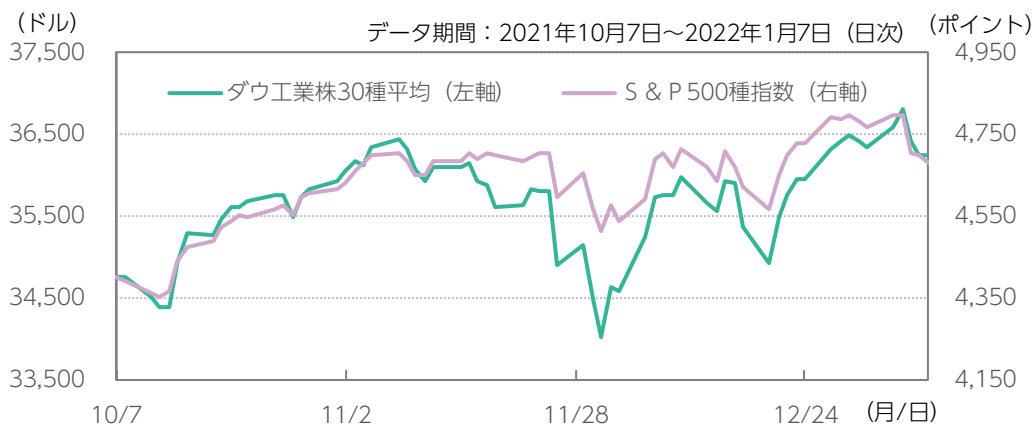
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で上昇となりました。
米連邦準備制度理事会（FRB）が金融政策の正常化を前倒しで進めるとの見方から、米長期金利が上昇した流れを受け、国内金利も週を通じて上昇基調をたどりました（価格は下落）。なお、国内金利が節目である0.1%を超える場面では、押し目買いも入りました（利回りは低下）。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

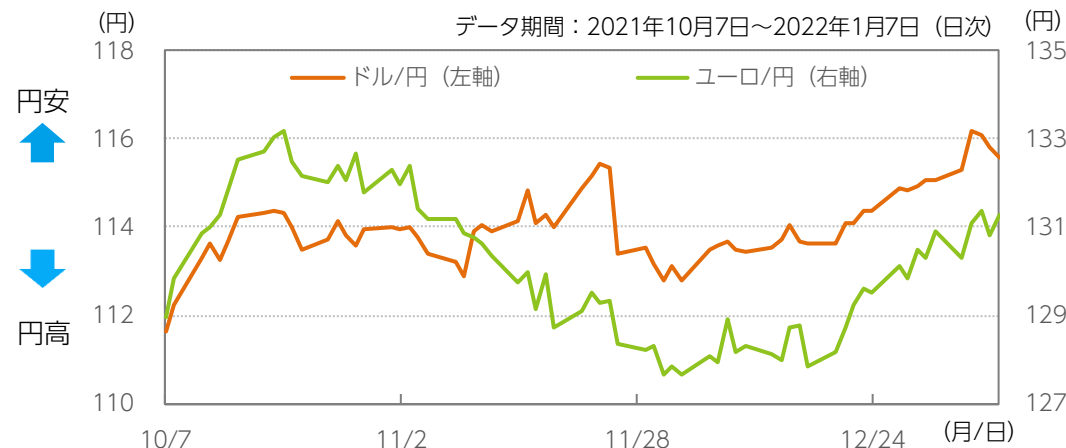
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で横ばいとなりました。
米景気の先行きへの期待感から買われ、3日（月）、4日（火）の終値は連日で史上最高値を更新しました。その後、2021年12月のFOMCの議事録要旨で、保有資産の縮小の議論を進めていることが明らかとなったことや、2021年12月の雇用統計で失業率や平均時給が市場予想以上に改善したことなどから、早期利上げ観測が高まると、週末にかけてグロース株を中心に売られました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円安米ドル高となりました。
5日（水）に公表された2021年12月のFOMCの議事要旨が、FRBが早期の利上げや、保有資産の縮小に前向きと受け止められると、今後の日米金利差拡大を見込んだ円売り米ドル買いが進みました。



5) 今週の見通しについて

先週の株式市場は、米国の早期利上げ観測により米長期金利が大幅上昇したことから、週末にかけてグロース株を中心に売られ、下落しました。
新型コロナウイルスの感染再拡大にともない、政府は沖縄県と広島県の全域、および山口県の一部地域にまん延防止等重点措置の適用を決定し、9日（日）より開始されました。オミクロン株は数日間で新規感染者が倍増するなど感染拡大のペースが速く、重症者が増加することとなれば、医療機関は対応しきれなくなるおそれがあると日本医師会は警戒を示しています。
今週は12日（水）に公表される2021年12月の米消費者物価指数が注目されます。前年同月比で5.0%以上の伸びが7カ月続いており、上昇が続くこととなれば、高インフレの現状を踏まえ、テーパリング（量的緩和縮小）の終了時期や利上げ開始時期がさらに前倒しされる可能性もありそうです。今週の株式市場も、先週に引き続き、米長期金利の動向をにらみながら、荒い値動きが予想されそうです。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。
- ファンドは、多量の換金の申込みが発生し換金代金を短期間で手当てする必要がある場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引ができないリスク、取引量が限定されるリスク等が顕在します。これらにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金の申込みの受け付けを中止する、また既に受け付けた換金の申込みの受け付けを取消しする可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性などがあります。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>